

平成30年度総合特区デイサービス改善インセンティブ事業の概要

5つの指標で、ストラクチャー・プロセスを評価。評価指標を達成した事業所にはアウトカム評価を実施し、上位事業所に奨励金を付与。また、DASCモデル事業で、認知症の早期発見・早期対応に努める。



説明会を実施

今年度の事業に参加する場合は、日常生活機能評価を実施すること

参加・・・

H30=144事業所
H29=158事業所
H28=164事業所
H27=153事業所
H26=151事業所

- 評価指標の収集(H30.12時点)
- 調査結果から、評価指標のベンチマークの達成(3つ以上)の可否状況で評価する

H30=64事業所、H29=62事業所、H28=72事業所、
H27=72事業所、H26=60事業所

評価指標	
1	外部研修への参加状況
2	医療機関との積極的連携(DASCモデル事業)
3	認知症高齢者の受け入れ人数
4	機能訓練指導員の常勤換算人数
5	介護職員のうち、介護福祉士の常勤換算人数

H30.8

DASC調査
(1回目)

H30.12

DASC調査
(2回目)

H30.6

アウトカム調査
(1回目)

H30.12

アウトカム調査
(2回目)

指標達成事業所のうち、Barthel Index 調査の維持・改善度で評価

【指標達成事業所かつ
アウトカム評価上位】
表彰+奨励金+情報公開
H27=12事業所、H28以降=10事業所

【指標達成事業所】
表彰 + 情報公開

バーセルインデックス (Barthel Index)

	点数	質問内容	得点
1 食事	10	自立、自助具などの装着可、標準的時間内に食べ終える	
	5	部分介助(たとえば、おかずを切って細かくしてもらう)	
	0	全介助	
2 車椅子からベッドへの移動	15	自立、ブレーキ、フットレストの操作も含む(非行自立も含む)	
	10	軽度の部分介助または監視を要する	
	5	座ることは可能であるがほぼ全介助	
3 整容	5	自立(洗面、整髪、歯磨き、ひげ剃り)	
	0	部分介助または不可能	
	0	部分介助または不可能	
4 トイレ動作	10	自立(衣服の操作、後始末を含む、ポータブル便器などを使用している場合はその洗浄も含む)	
	5	部分介助、体を支える、衣服、後始末に介助を要する	
	0	全介助または不可能	
5 入浴	5	自立	
	0	部分介助または不可能	
	0	部分介助または不可能	
6 歩行	15	45M以上の歩行、補装具(車椅子、歩行器は除く)の使用の有無は問わず	
	10	45M以上の介助歩行、歩行器の使用を含む	
	5	歩行不能の場合、車椅子にて45M以上の操作可能	
7 階段昇降	10	自立、手すりなどの使用の有無は問わない	
	5	介助または監視を要する	
	0	不能	
8 着替え	10	自立、靴、ファスナー、装具の着脱を含む	
	5	部分介助、標準的な時間内、半分以上は自分で行える	
	0	上記以外	
9 排便コントロール	10	失禁なし、洗腸、坐薬の取り扱いも可能	
	5	ときに失禁あり、洗腸、坐薬の取り扱いに介助を要する者も含む	
	0	上記以外	
10 排尿コントロール	10	失禁なし、収尿器の取り扱いも可能	
	5	ときに失禁あり、収尿器の取り扱いに介助を要する者も含む	
	0	上記以外	
合計点(/100点)			

指標達成事業所とは・・・

下記の5つの指標は岡山市と市内事業所が共同して選定した「デイサービスの質を評価する指標」です。デイサービス改善インセンティブ事業では5つの評価指標のうち、3つ以上の指標のベンチマークを達成した事業所を指標達成参加事業所としています。

	評価指標	ベンチマーク	ベンチマーク達成事業所数
1	外部研修への参加状況 延べ人数／職員数(常勤換算人数)	評価対象事業所の 平均値以上	61事業所
2	医療機関との積極的連携 (DASCモデル事業への参加の有無)		66事業所
3	認知症高齢者の受け入れ人数 実人数／利用定員 (H26はⅡa以上、H27はⅢa以上)		58事業所
4	機能訓練指導員の常勤換算人数 常勤換算人数／職員数(常勤換算人数)		64事業所
5	介護職員のうち、介護福祉士の常勤換算人数 常勤換算人数／職員数(常勤換算人数)		76事業所

指標達成事業所数

H30は、64事業所／144事業所参加
 H29は、62事業所／158事業所参加
 H28は、72事業所／164事業所参加
 H27は、72事業所／153事業所参加
 H26は、60事業所／151事業所参加

5つ達成・・・3事業所
 4つ達成・・・19事業所
 3つ達成・・・42事業所

<個票の見方①:指標の達成状況>

5つの「指標による評価」の補足

○外部研修の参加状況

事業所が、職員に対して介護サービスの向上に寄与する研修にどの程度研修にさせているかを評価しています。

○医療機関との積極的連携

DASCモデル事業に参加しているかどうかを評価しています。

○認知症受け入れ人数

日常生活自立度 3a以上の認知症の高齢者の受け入れている人数を評価しています。

○機能訓練指導員の常勤換算人数

理学療法士、作業療法士、柔道整復師、看護師等のリハビリ専門職である機能訓練指導員の人数で評価しています。

○介護職員のうち、介護福祉士の常勤換算人数

専門的知識と技術をもって認知症や寝たきりのお年より、障害があるために日常生活を営むことに支障がある人たちに対し、身体的、精神的自立を助けるために入浴、食事、排泄等の介護を行う介護福祉士の人数で評価しています。

<個票の見方②:アウトカム評価の達成状況>

アウトカム評価上位事業所とは・・・

- デイサービス改善インセンティブ事業参加事業所が、平成30年6月・12月の2度にわたり、サービス利用者にBarthel Index調査(※)を実施。
- その結果、1回目調査より2回目調査の方が、Barthel Indexの得点が高い人(状態が維持・改善した人)が多い事業所のうち、利用者の状態の維持改善率が高い事業所の上位10位までが「アウトカム評価上位事業所」として岡山市から奨励金が付与されます。
- 奨励金の金額・・・@100,000円×10事業所

バーセルインデックス(Barthel Index)

	点数	質問内容	得点
1 食事	10	自立、自助具などの装着可、標準的時間に食べ終える	
	5	部分介助(たとえば、おかずを切って細かくしてもらう)	
	0	全介助	
2 車椅子からベッドへの移動	15	自立、プレーキ、フットレストの操作も含む(非行自立も含む)	
	10	軽度の部分介助または監視を要する	
	5	座ることは可能であるがほぼ全介助	
	0	全介助または不可能	
3 整容	5	自立(洗面、整髪、歯磨き、ひげ剃り)	
	0	部分介助または不可能	
4 トイレ動作	10	自立(衣服の操作、後始末を含む、ポータブル便器などを使用している場合はその洗浄も含む)	
	5	部分介助、体を支える、衣服、後始末に介助を要する	
	0	全介助または不可能	
5 入浴	5	自立	
	0	部分介助または不可能	
6 歩行	15	45M以上の歩行、補装具(車椅子、歩行器は除く)の使用の有無は問わず	
	10	45M以上の介助歩行、歩行器の使用を含む	
	5	歩行不能の場合、車椅子にて45M以上の操作可能	
	0	上記以外	
7 階段昇降	10	自立、手すりなどの使用の有無は問わない	
	5	介助または監視を要する	
	0	不能	
8 着替え	10	自立、靴、ファスナー、装具の着脱を含む	
	5	部分介助、標準的な時間内、半分以上は自分で行える	
	0	上記以外	
9 排便コントロール	10	失禁なし、浣腸、坐薬の取り扱いも可能	
	5	ときに失禁あり、浣腸、坐薬の取り扱いに介助を要する者も含む	
	0	上記以外	
10 排尿コントロール	10	失禁なし、収尿器の取り扱いも可能	
	5	ときに失禁あり、収尿器の取り扱いに介助を要する者も含む	
	0	上記以外	
合計点(/100点)			

※Barthel Indexとは、日常生活動作における高齢者の機能的評価を数値化したものです。岡山市ではこの尺度を使い、デイサービス利用者に調査をして、事業所ごとの維持・改善状況をもとにアウトカム評価を平成27年度から実施しています。